



2019年3月5日 奥浅草だより第21号

桜の山谷掘公園と弾左衛門屋敷跡

山谷掘公園は花見の穴場 台東区リバーサイドスポーツセンターに近い山谷掘公園は、スカイツリーを背景にした桜の名所です。上野公園や隅田公園は有名で広大な桜の名所ですが、近年まで山谷掘公園はひっそりとしていました。江戸期に、吉原遊郭に通う贅沢なルート（奥浅草）の舟宿があった山谷掘という川は、今は埋め立てられて下流の一部が桜の樹木が多い公園になっています。春の桜や夏の緑は静かな周辺を賑わせてくれます。そしてこの場所は、江戸の歴史の拠点の1つなのです。

古地図にある空白の謎 江戸時代の古地図を見ると、山谷掘のすぐ北側に空白の土地があります。その頃の地図では、他は綿密に地名で埋められているのに、この場所だけはどの地図を見ても空白になっているのです。時代が新しくなると、「浅草新町」とつけられています。これはどのような土地だったのでしょう。

歴史上の人物・弾左衛門 江戸期の初めから、弾左衛門という幕府御用の役職があって、世襲で江戸末期までちょうど13代続きました。どのような要職かというと、当時の関東一円の被差別民を統治する穢多頭であり、傍ら死んだ牛馬の革を一手に処理していました。さらに、牢の管理や刑の執行、河川の維持、灯心供給の独占など、都市の運営の執行役でありました。そのため、旗本並みの待遇を保障され、この今戸地区に居住地が与えられ、行政府のほかに250軒の世帯が住んでいたそうです。これが「浅草新町」で、現在の都立浅草高校が弾左衛門の屋敷跡の一部です。周囲を社寺で囲み、外から見えにくい造りにしてあったそうですが、出入りは自由でありました。さらにこの弾左衛門の役割の1つに、軍事出動がありました。江戸期を通じて全くご用がなかったのに、幕末の鳥羽・伏見の戦いには13代弾左衛門以下65名が幕府側として参戦し、その報奨として賤民から平民に引き立てられました。もっともその3年後の1871年には「穢多非人を平民とする」勅令が出ています。

桜の名所・山谷掘は、吉原と山谷に深い関わりのある歴史の「のぞき窓」です。

~~~~~

この「奥浅草だより」は『奥浅草 地図から消えた吉原と山谷』の発行後話題を拾って不定期に発行しております。

サノックスホームページでもご覧いただけます。 <http://www.sanox.co.jp>

佐野陽子・江原晴郎・森下恒子